

1 主題名 わがままな行い 【節度、節制】第1学年及び第2学年 A-(3)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、わがままをしないこと、過度に自己中心的な振る舞いを控えることは、しばしば自分の周囲のよりよい生活につながり、結果として自分自身のよりよい生活にもつながっていく。1年生のこの段階においては、自己中心性が強く、他者の気持ちに気付かず衝動的に行動してしまうことも多い。わがままをしないで節度ある生活を送ることの大切さを実感させたいと考え、この主題を設定した。

(2) 児童の実態について (男子13名、女子6名 合計19名) (令和3年 9月15日実施)

意識調査

- ①友達に親切にしていますか。(はい 19名、いいえ 0名)
 ②家や学校で、わがままをしてしまったことはありますか。(はい 2名、いいえ 17名)
 ③友達が自分勝手なことをすると、どんな気持ちになりますか。
 (いやな気持ち 16名、気にしない 3名)

本学級の児童は、入学して半年を迎えた今、学校生活にも慣れてくるとともに、友達の輪が広がり、毎日楽しく生活している。また、運動会では、集団行動を通してみんなで心をつなげて何かを成し遂げる大切さや喜びを知ることができた。少しずつではあるが、周りの友達と協力して助け合ったり気遣ったりすることができるようになってきている。

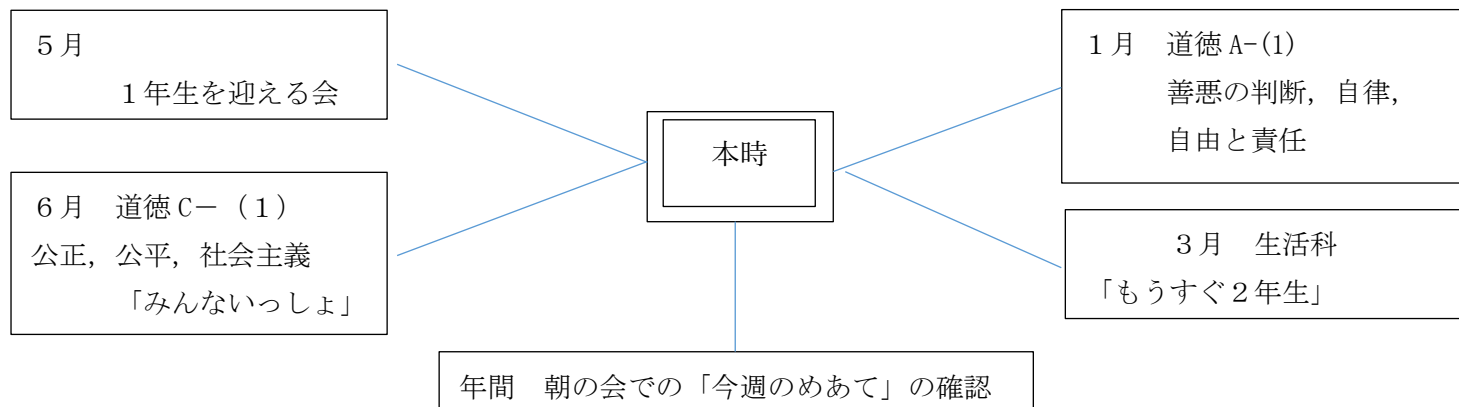
このように、様々な場面で周りの人のことを考えて生活している一方で、休み時間の遊びで鬼になったとたん勝手に抜けてしまったり、遊びのルールを自分の都合のよいように勝手に変えてしまったりする実態がある。また、集団下校でも、勝手な行動をして班の友達に迷惑をかけていることもある。このように、学校生活に馴染んできた一方、周囲の人の気持ちを考えず自分の意のままに振る舞ってしまう児童が出てきているように感じる。

しかし、実態調査からでも分かるように、ほとんどの児童が、わがままな行動はしていないと認識していることが分かる。本単元の学習を通して、無意識のうちに、自分勝手な行動をしてしまっていることに気付かせ、周囲のことを考えながら生活していこうとする意識を高められるようにしたい。

(3) 資料について (資料名「かぼちゃのつる」東京書籍)

本教材は、周囲の助言や注意を聞き入れずにぐんぐんとつるを伸ばしたかぼちゃが、最後には走ってきたトラックにつるを切られてしまうという話である。児童がかぼちゃの思いに共感できるよう、場面絵を掲示し、気持ちが伝わるよう工夫して音読したり、役割演技を取り入れたりして、感情移入しやすいよう、資料の扱い方も工夫したい。かぼちゃの思いとその変化に共感することで、わがままをしないで生活するよさについての認識を深めるとともに、周囲の人の注意を素直に聞いて、自分が間違っているときには改めようとする気持ちをもたせたい。

3 他教育活動との関連



4 本時の指導

(1)ねらい

周りの人のことを考えて、わがままなことや自分勝手な振る舞いをしないで生活しようとする心情を育てる。

(2)準備・資料

場面絵・ペープサート・かぼちゃ、はちなどのお面・ワークシート

(3)展開

主な活動と発問 ○発問 ○主発問	予想される児童の反応	支援の手立て ○個に応じた支援 (評) 評価支援の手立て
1 学校生活の中で、自分勝手な友達の行動に困ったことやその時の気持ちについて話し合う。 ㊦わがままをしないでせいかつすることについてかんがえよう。 2 資料「かぼちゃのつる」の範読を聞き、話し合う。  ○ 自分の畑の外へつるを伸ばしていくかぼちゃはどんな気持ちだったかな。 ○ かぼちゃは、はちやちょう、すいかや犬に注意された時どんな気持ちだったかな。 ◎ かぼちゃは泣きながら、どんなことを思ったかな。(ワークシート) ・役割演技をする。 (はち・犬・かぼちゃ)	・廊下を走っている人にぶつかりそうになった。 ・並んでいたら抜かされた。 ・しゃべっている友達がいたので先生の話が聞こえなかった。 ・遊びのルールを勝手に変えてしまう友達がいて、楽しくなかった。 ・どこまでも伸ばしていきたいな。 ・どんどん伸びて気持ちいいな。 ・うるさいなあ。 ・ほっといてよ、ぼくの勝手にしよう。 ・少しくらいかまうもんか。 ・みんなの注意をきけばよかった。 ・みんな、ごめんね。 ・これからは、自分勝手なことはやめよう。 ・もうわがままは言わないよ。 ・これからは、周りの人のことをよく考えよう。 ・弟とおもちゃの取り合いになったけど譲ってあげた。 ・ぶらんこの順番をちゃんと守って仲良く遊べた。	○個に応じた支援 (評) 評価支援の手立て ・わがままな友達の行動に遭遇した時のことを考えることで、本資料の内容へとつなげ、ねらいとする道徳的価値への方向付けとする。 ・黒板に場面絵を貼り、さらにペープサートを動かしながら範読を行い、資料の世界に入り込み、登場人物の気持ちに共感できるようにする。 ・注意されたかぼちゃの気持ちについて、場面絵を用いながら、会話を振り返り、考えられるようにする。 ・お面を付け、役割演技することで、かぼちゃの気持ちや他の生き物たちの気持ちに共感できるようにする。 ○なかなか書けない児童には、つるが切れて泣いているかぼちゃの表情に着目させ、反省しているかぼちゃの気持ちを想像させる。 (評)周りの人のことを考えて、わがままなことや自分勝手な振る舞いをしないで生活しようとする気持ちをもつことができたか。(発言・ワークシート) 【目標が達成できない児童に対する手立て】 無理に書かせようとせず、かぼちゃの気持ちに共感できるような言葉かけをするようにする。 ・自分が節制して行動できたことや、周りの人のことを考えて行動できたことについて発表させることで、ねらいとする価値の自覚を促していくようにする。 ・節度を保てず失敗したが、その反省を生かして、自分も周囲の人も気持ちよく過ごすことができた話を聞かせ、実践への意欲につなげる。
3 自分の経験の中で、わがままをせずに我慢できたことについて話し合う。		・自分が節制して行動できたことや、周りの人のことを考えて行動できたことについて発表させることで、ねらいとする価値の自覚を促していくようにする。
4 教師の説話を聞き、学習のまとめとする。		・節度を保てず失敗したが、その反省を生かして、自分も周囲の人も気持ちよく過ごすことができた話を聞かせ、実践への意欲につなげる。